



Auktorisoidun kääntäjän tutkinto 12.11.2016

Kielet ja käännösuunta
japanista suomeen

Aihepiiri (aukt3)
tekniikka

Käännöstehtävä
Laadi liiteasiakirjasta laillisesti pätevä käännös

Lähde: <http://www.jst.go.jp/nuclear/////evaluation/h25/pdf/090501.pdf>

Käännöksen käyttötarkoitus

Käännetään asiantuntijalausunto Suomen viranomaisille.

*Huom! Käännökseen ei saa kirjoittaa vakuuslauseketta eikä nimeä!
Vakuuslausekkeen tai nimen kirjoittaminen käännökseen johtaa
tutkintosuorituksen hylkäämiseen.*

Käännettävän tekstin pituus 833 merkkiä. Translitteroituna tekstissä on 1979 merkkiä.

原子力システム研究開発事業 特別推進分野 事後評価総合所見

1. 研究開発の概要

「もんじゅ」の設計データや性能試験データは今後の実用炉を目指した開発に貴重なデータとなる。これら「もんじゅ」のデータを有効に活用するとともに国内外で得られた最新知見を反映し、「もんじゅ」の運転並びに高速増殖炉の実用化のために必要な1) 炉心・燃料技術、2)

プラントの安全性に関する技術、3)

プラント保全技術について、各技術開発目標を適切な研究開発マネジメントの下、達成した。

- 1) 炉心・燃料技術に関する研究開発において、炉心核設計手法に関する技術開発では、「もんじゅ」炉心の性能試験のデータを利用して、
(---
)、最新の解析手法に基づく炉心核設計手法を構築することを目的とする。
(---)
- 2) プラントの安全性に関する研究開発では、安全上重要な低流量時の熱流動特性を精度良く解析するため、「もんじゅ」の性能試験データ等を用いて、3次元伝熱流動解析手法による中間熱交換器(IHX)内部の実効的な熱伝達率の評価、原子炉容器や配管内のナトリウム温度成層化現象の予測手法の開発を行うことを目的とする。(---)
- 3) プラント保全技術に関する研究開発では、「もんじゅ」の2倍の60年の寿命で設計される実用炉の保全技術を確立する必要がある。(---)

2. 総合評価

高速増殖炉の実用化を目的とした、広範な技術分野を含む研究開発プロジェクトの下、種々の技術シーズを有する複数の大学と公的研究機関が終結し、炉心・燃料技術、およびプラントの安全性と保全に関する技術において、将来の高速炉の設計に有用な知見が体系的に得られたことは高く評価できる。実機における技術ニーズを熟知した産業界も請負という形で参画して、(---

)コミュニティーが形成された意義も大きい。個別テーマにおいても、将来炉に適用可能な炉心核設計手法の開発、腐食生成物のナトリウム中移行挙動評価技術、高温条件での渦電流探傷技術、 γ 線コンプトンカメラによるナトリウム漏えい検出技術など、数々の顕著な成果が見られる。